

いつつむりの郷

五頭〈ごず〉は〈いつつむり〉と呼ばれ、古くから人が自然を敬い、心身を清め、人々の幸せを祈ってきた場所です。

古来、山は人智を越えた生命の源として畏れ敬われていました。ここ五頭の山々もご神体として崇められ、今も多くの山神様が祀られ大切にされています。

後、修験者達が山で心身を清め、そこで体得した靈感や知識を人々の暮らしに生かすことが日本各地で行われていました。五頭の麓には山伏の里もあったと言います。彼らの薬草や製鉄の知識を活かし、山の民と共に生きていたと言われます。今も五頭山系の地名にはその製鉄の名残が残っています。

五頭山は、809年に空海により神仏繁栄の地として開山され、五つの峰に5尊を勧請（※神仏の来臨のこと）、山麓に海満寺（今の華報寺）が建立されました。五頭の頂から麓にかけての広域が殺生禁断の霊地だったと伝えられています。中世には、出湯、羽黒、大荒川上・中流（賽の河原）の一角が信仰の地だったようです。

いつつむり（五頭）の古（いにしえ）に思いをはせながら…、自然の息吹を感じながら…、「いつつむりの郷」を巡ってみてください。

出湯コース 樹齢500年の松並木が続く、賽の河原の野路を通り、五頭浄土信仰の中心地・華報寺（海満寺）に多くの人が訪れたと言います。

出湯電気山道（山奥の水力発電所への通勤道でした）

いこいの森と出湯温泉を繋ぐ道。明治、水力発電が山の奥深いヨシベの山神様近くに作られました。

華報寺（かつては海満寺）・33観音

現在は禅宗寺院です。傍には33観音が安置されています。

出湯温泉（1200年前弘法大師開湯）

秘密加持の霊泉として開湯。五頭霊峰に入る精進湯だったとも言われます。湧口に足を向けないこと。

賽の河原コース ここは「柳田国男全集」にも出ている場所。賽の河原は俗界と聖域の境の河原のこと。大荒川は浄土への精進川だったとも言われます。道路工事でなくなりましたが、「諸」「天」「得」（「諸天」とは天界や神仏のこと）などが書かれ一字一石経（経典を書写した石）が多数みついています。「賽の河原」は早くに亡くなった子が石を積み、邪魔する鬼から地蔵様が守ったという言い伝えから、お地蔵様と子供たちが祀られています。

賽の河原公園

290号線山側にはお地蔵さまと子供たちが祀られたお堂があります。反対側には賽の河原公園があります。

優婆尊・33観音・霊水

始まりは、行儀が霊夢を感じ、難産難病に苦しむ人を救済したという伝承。人々の救済を願い全国を巡った行儀が優婆尊と33観音を彫刻。今も見ることが出来ます。優婆信仰は浄土への入口。祓場。

森と水の散策コース 五頭の豊かな自然を気軽に歩ける道です。

木り香散策道・畑江の森・秋取清水

「木り香の散策道（どんぐりの家あり）」と地権者協力で「森のこだま」がつくった「畑江の森・散策道」を歩けます。（催し・団体利用は要相談）

五頭薬用植物園

涼しい森の中を歩きます。五頭は薬草の宝庫。麓には薬草の問屋もあったそうです。

五頭山麓いこいの森

大荒川の清流沿いに動植物が多く生きる広大な森です。お弁当を食べたり、寝転んだり、ゆっくりできます。<https://www.gozuikoi.com/>

他、おすすめスポット

- 秋取山
- 山神様
- 魚止めの滝
- 湧水
- 出湯・村杉温泉街

「森のこだま」（五頭山麓いこいの森・指定管理者）が、数々の書物をもとに作成。（五頭の歴史については諸説あり）（注）各自の責任の下でお楽しみください。むやみな立ち入り禁止。山菜・山野草等、採取は禁止の場所です。（参照）森のこだま HP「癒しを求めて新潟で温泉&山歩き」：<https://gozu.niigata.jp/>